

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 10 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3 4 7 0 1 0 3 1 0 6		
法人名	つる・かめ共和国株式会社		
事業所名	つる・かめ共和国 大正橋		
所在地	広島市南区西蟹屋一丁目1-29 (電話) 082-567-6851		
自己評価作成日	平成24年8月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年9月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご高齢者の方々の一日一日も貴重な日々であると考えています。 ・よく笑っていただけるような環境作りに努めます。 ・ご本人の出来る事で、それぞれ何らかの役割を持っていただき、人の役にたって生きがいを感じていただける環境作りに努めます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

つる・かめ共和国大正橋（以下、ホーム）はJR広島駅近くに位置し、ホームの前にある川土手は、四季を通じて入居者の散歩道となっています。協力医療機関から毎日往診があります。家族や入居者の希望があった場合は、主治医と連携を取りながら看取り介護も行われます。ホームでは、生きることは食べることでもありと考えて三食とも手作りの食事を提供されます。職員は理念を共有し、入居者が生涯現役として笑顔で過せるように、一人ひとりの個性を尊重したケアに努められています。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当施設の理念の基本は、ご利用者に生涯現役を目指していただくこと。 日々の話し合いや、月一回の全体会議などで、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供するなど、理念の共有に努めている。	開設当初からの理念を共有し、実践に取り組まれています。喜怒哀楽が自然に出せる雰囲気づくり、入居者ができることはしてもら環境づくりは、先輩職員から新任職員へ日々の実践を通して共有されています。入居者を人生の先輩として尊敬し、相談したり、経験を伝えてもらったりする機会を多く持つように努力されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りや、運動会・新年宴会などに積極的に参加しており、またご近所の方もときどき当施設に遊びに来ていただいている。	町内会に加入して、職員が地域主催の行事に協力されています。「いのこ祭り」の日にはホームに神主と獅子舞が来るなど、入居者は楽しみにされています。また、毎年開かれる「つる・かめ祭り」には地域住民の参加があります。救急救命の訓練のときは、町内に回覧し、近隣住民も参加されました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の独居高齢者の安否確認を職員交代で、時々電話や訪問声掛けを行っている。 特に、土日や盆休みや正月休みなどの安否確認を実施している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センターの方々よりさまざまな提案を頂き、当施設のミーティングで話し合い、出来ることを実行している。たとえば近所の幼稚園児の訪問や災害時にご利用者の救出依頼など。	会議は、2か月ごとに開催されています。家族には交代で出席を依頼されていますが、遠方の家族は参加が難しくなってきました。会議では、出席者からホームの空き状況をよく質問されます。ホームから協力を依頼し、災害時の町内緊急連絡網を作成されています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者さんも大変忙しそうで、各種届出や運営推進会議開催報告以外にはこれといった行き来の機会がない。	年1回、運営推進会議に市担当者の出席があります。介護保険制度について確認するときは、できるだけ同じ担当者に相談し、関係を築くようにされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止のマニュアルを作り、介護職員間で徹底し理解している。	身体拘束の勉強会を行い、職員に周知されています。ホームが2階にあること、周辺の交通量が多いことから、安全のために玄関は施錠されています。外出を希望される入居者には、職員が付き添って出かけます。ターミナル時に、転落防止のために家族の同意を得てベッド柵を設置された例がありますが、見直しはされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間で「虐待はしない」と徹底できている。ミーティングなどで虐待につながる問題点や困っていること、悩み等をオープンに話し、解決・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	広島県介護予防研修相談センター作成のパンフレットを閲覧できる場所に設置するとともに、実際に「かけはし」を利用して財産管理を行っていただいている。新規入居者にも紹介している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族との面談時に契約書関係も説明し、質問や要望などを聞き出せるよう努めている。また介護計画書作成時に、ご家族の思いを聞かせていただくための記入欄を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	当施設は365日24時間いつでも良いので、頻繁にご家族に来ていただけるよう、常に促している。またほぼ全員のご利用者に運営推進会議に出いただき、意見を述べていただいている。	訪問の際に意見を聞かれています。3か月ごとに、ケアプランと一緒に手紙や写真を同封するなどして状況報告をし、意見を出してもらうように努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の全体ミーティング以外に、日々のコミュニケーションで聞く機会を持つようにしている。	管理者と職員は意見が言いやすい関係ができています。出された意見は、ミーティングで話し合い運営に反映されています。リビングの電灯が暗いという意見があり、明るいものに取り替えた例があります。また、勤務外でも集う機会を持ち、意見を聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在の人員配置で、日々の業務をこなすのが精一杯の状況であるが、処遇改善交付金の給付を受け、給与水準の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングや日々の業務の中などで行っているが、育つ人と育たない人がいることも事実で、育つ人を募集することが重要であると感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前に他施設と短期間での職員交換など試みましたが、勤務時間(シフト)や交通の便などが問題になり、実現していない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居契約までに、今日までの生活スタイルや心配事、嗜好や嫌なこと・好きなことなどを、雑談の中から聞き出し、また体験入居もしていただき、満足に近づけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	体験訪問や面接に来られたとき、ご家族の思いを直接職員に話していただいている。 またご家族の不安や困っていることなどを聞き出し、少しでも満足していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設に連絡してこられるときは、家族での介護が限界と感じておられる場合が大部分であり、入所を前提として、安心・満足を提供できるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	当施設の理念でもありますが、ご利用者は人生の大先輩であり、若輩である我々介護者は、子や孫のような位置関係を貫くことである、ということを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	当施設はご家族に頻繁に来ていただいています、その際自発的にご家族が食器洗いをされたり、食事の準備を手伝ったりされている。 ご利用者はこの風景を大変喜ばれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の知人や県外のご親戚などの訪問も、ご利用者が拒否されない限り、自由に訪問していただいている。またご利用者が昔から通っておられた理髪店への外出支援なども行っている。	入居者は、法人が運営する1階デイサービスの利用者や職員と馴染みの関係ができています。家財を預けている場所へ、好みの衣装を取りに行くのが楽しみとなっている入居者もおられます。また、信仰の継続も支援されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	わずか9人のご利用者でも、共同生活ですからたまには口論もあります。その時後に心の傷が残らない程度に介護職員が介在する程度です。 そのようなことにより、少しずつ連帯感が生まれてきているように感じている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在まで当施設を退所された方は、老人保健施設や病院に移転されたため、その後の関係継続はありませんが、必要とされる場合は当然おつき合いを大切にしていこうと考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	わずか9名のご利用者でも、好き・嫌い・興味のあることはばらばらであり、それぞれのご利用者の思いを大切にして、介護者が援助しながら、生活していただいていると感じている。	入浴のときに、気持ちを伝えられることがよくあります。好きな歌手や音楽が分かったので、家族の協力を得てラジカセとCDを届けてもらい、歌だけでなく、皆で振り付けをして楽しむようになった例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者やご家族から生活歴などを、機会あるごとに詳しく聞きだし、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	当施設は、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供することであると考え、可能なことから実行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	管理者・ケアマネ・介護職員間でよく話し合い、ご利用者の情報を集めて、お一人お一人に適した介護計画が作成できていると考えている。	家族からは電話や面会のときに意見を聞かれています。ホームでは、毎日、勤務帯ごとに引継が行われ、入居者の日々の変化を共有されています。介護計画は、ミーティングで話し合い、主治医からも意見を聞き、計画作成担当者が中心になって作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護日報に記録し、情報の共有化を促し、介護の実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当施設では御利用者様(御家族様)が強く希望された場合は、ターミナルケアを実施しています。実施するに当たっては、御家族・主治医・管理者・ケアマネ等で十分な話し合いを行います。介護者にとっては大きな負担となりますが、ケアミーティングを重ね、且つ主治医と連携をとりながらなんとかやり遂げております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員には地域の行事へのご利用者の参加承諾やボランティアさんの紹介依頼など、消防には防火・避難訓練や救急救命講習などを依頼している。幼稚園などには園児の訪問依頼などを行っている。またさまざまなボランティアさんに来ていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設のかかりつけ医は、24時間体制で往診していただいている。その節は、必ず事前にご家族の承諾を得ている。	ホームの協力医がかかりつけ医で、毎日往診による健康管理が行われています。医師が入居者の状態を把握し、緊急の場合は駆けつけてもらえるので、安心感があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	基本的にはかかりつけ医に相談している。しかし、同じ建物内にデイサービスがあるため、その看護師の意見を聞くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時は、何度か様子を伺いに見舞いに行き、退院が決まれば、どのようなケアが必要なのかを、病院職員やご家族と打ち合わせをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「つる・かめで最期まで」というご利用者が増え、終末期のあり方について、ご家族の意向、主治医の見解をふまえ、家族・主治医・当施設管理者・ケアマネージャーで話し合いの場を持っている。	家族の希望により、主治医と連携を取りながら看取り対応をされます。これまでも看取りの経験があります。生きることは食べることであるとの考えから、ターミナル期には入居者が食べたい食事を提供し、最期まで人間らしい生活していただくことを職員間で共有されています。また、寝たきりになっても褥瘡をつくらないケアを実践されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署や看護師などから応急手当や初期対応の講習を、全員が受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月避難訓練をしていますし、町内の行事に顔を出し、災害時には助けていただけるようお願いしている。	毎年1回消防署員立ち会いのもと、避難訓練を実施されています。署員の指導で、2階からの避難方法も研修されています。また、夜間、昼間を想定した訓練は月交代で行われています。	今後は、運営推進会議を利用して、参加者に避難訓練の実施予定を報告し、回覧板で近隣住民に参加を呼びかけ、協力関係を深められることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者は人生の大先輩ということを基本に、接していますし、個人情報厳重に管理している。	一人ひとりの人格を尊重しながら、家族のように親しみを込めた言葉かけをされています。入居者が大切にしていることを職員が共有し、否定はしないこと、信頼関係を築きあげるまでは丁寧な言葉かけをすることなどを周知されています。また、排泄介助のときは必ずドアを閉めます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	当施設の理念の基本は、介護職員はご利用者が今持っておられる、精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供することであり、現時点で十分ではないが、できるだけ実行するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護職員の数に限りがありますので、十分ではありませんが、朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムはある程度とっているが、その他はご利用者の要望にできるだけ沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者が希望される、なじみの理髪店に散歩をかねて出かけている。ADL低下によりお出かけが困難な方は、出張美容を手配している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者の好みや食べやすさなどを工夫した食事になるよう心がけている。また食材の下ごしらえや調理・配膳及び食後の片付けやおやつ作り、などもご利用者に参加していただいている。	食事は生きることに繋がると考え、毎食、手作りの食事を提供されています。季節の催しや行事のときは、入居者の好みのメニューとなります。主菜か副菜のどちらかに好きな食べ物を加えるように献立を工夫されています。また、ファストフードや、ファミリーレストラン、回転寿司などへ外食に出かける楽しみもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分補給については、個人の体調や気候、気温に合わせて、摂取量に気配りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きや入れ歯の清掃とかみ合わせのチェックなど、口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は下着、夜間はリハビリパンツもしくは尿取りパットを使用するなど工夫し、日中のトイレ誘導、パット交換はご利用者に合わせた介助を行っている。また衛生を保つために日夜を問わず、陰部あるいは全身清拭などを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、リズムに合わせてさりげなく誘導されます。昼夜を問わず排泄の間隔が近い入居者も、鈴を用いて知らせてもらい、自立に向けた支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や適度な運動をしていただくことを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者の都合、(たとえば・・水戸黄門など見たいテレビがある)などに合わせて、入浴のお誘いをしている。	浴室は個浴です。入居者の介護度が高くなり、2人、3人体制で対応する場合もあります。週3回の入浴が基本ですが、夏は週4回の検討もされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムは基本的にはありますが、起床時間も就寝時間も個人差があり、ご利用者に合わせた介助を行っている。昼食後必要とされるご利用者には、短時間の昼寝もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関しては、かかりつけ医の指示に従い、また服薬後の症状の変化もかかりつけ医に報告し、その後の指示も受けていますし、それらのことを詳しくご家族に報告している。また薬のファイルを作り、介護職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	当施設の理念の基本である、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台の提供を心がけている。ご利用者が意欲や興味を示されること、たとえば食事の下ごしらえやおやつ作りまた食材などの買い物・散歩・園芸や同じ建物内にあるデイサービスへの交流訪問などなど、行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域のお祭り・運動会などへの参加や、ご利用者自身のほしいものや食材などの買い物、散歩、デイサービスへの交流訪問などなど行っている。	ホーム前の川土手が散歩コースとなっています。車椅子使用の入居者は、階段昇降機を利用して1階に降り、外出されます。近くのショッピングセンターでの買い物や、入院された入居者のお見舞いに行くなど、一人ひとりの希望に寄り添いながら外出支援をされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望をご家族に根気強く伝え、ご理解いただけた場合は、実施している。ただ認知症のため、保管場所が分からなくなり、被害妄想もしばしば起こってしましますが、プラス面のほうが多いと感じていますので、今後も実施するつもりである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	絵手紙をご利用者に作っていただき、ご利用者の散歩の途中に投函していただき、ご家族へ郵送した。またご家族よりご利用者に返事が届くような支援をした。電話も希望があれば、自由に掛けていただけるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの壁にはご利用者が書かれた季節の花のイラストなどを飾ったり、お花があるときは、玄関などに活かしている。また季節ごとにリビングの飾りつけを変えたり、誕生日会などのパーティの際は、華やかに飾りつけている。	リビングの中に台所があり、調理をする職員の姿が見え、匂いや音もすぐそばで聞こえ、生活感に溢れています。職員と入居者、入居者同士の距離が近く、家庭的で居心地の良い雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他に、事務所ソファも共有スペースにしていますので、ご利用者が自由に利用しておられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の生活暦を理解し、入居時より馴染みの物、たとえば朝夕のおつとめをされる方はお仏壇、嫁入り道具だった鏡台、などの持込みをお願いしている。また気に入っている写真やご家族の写真なども飾っている。	居室には洗面台とエアコンが備え付けられています。カーテンや家具は一人ひとりの好みのもを持ち込まれ、どの部屋も個性に応じた雰囲気です。手作りの作品が飾られ、趣味の機器を持ち込む入居者もあり、居心地の良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	混乱や失敗などで、ご利用者が自信をなくしそうな場面を招く可能性がある場合は、出来るだけ否定しないで防ぐ努力をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 つる・かめ共和国 大正橋

作成日 平成 24 年 11 月 19 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在，災害対策として町内会の緊急連絡網にて地域との連携を図っている。これを活用した取り組みをしていく事が課題である。	現在，年に1回消防職員立会いのもと，避難訓練を行っているが，これを町内会と連携したものにする。	避難訓練に多くの町内の人に参加していただけるよう，運営推進会議での提唱する。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。